

H 1 7 . 1 0 . 2 6 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日 時：平成17年10月26日(水) 13時00分～17時00分

議事概要：

表 H 1 7 . 1 0 . 2 6 設楽ダム猛禽類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1. 生態系上位性の影響評価について	・生態系上位性の影響評価について説明した。	・クマタカの餌について調査を行った方が良いが、調査は可能か。 ・餌量の定量的な調査は難しいので、餌の生物種リストくらいは入れた方がよいのではないか。	・事務局：これまで実施された動物調査結果からクマタカの餌となりうる生物種リストを整理する。
		・781回のハンティングデータについて、ハンティングされた動物の種類ごとに回数を整理すること。	・事務局：ハンティングされた動物の種類毎に整理する。
		・狩り場の推定について、営巣地の周辺以外にも狩り場は、行動圏なりコアエリアに広く分布しているため、そのことも明記すること。	・事務局：営巣地の周辺以外にも狩り場は、行動圏なりコアエリアに広く分布することを追記する。
2. 今後の調査方針について	・今後の調査方針について説明した。	・湛水予定区域の大部分にはクマタカの飛跡が少ない。これは、調査時間が少なく、街中に近いことが要因であると考えられることから、土地利用図と重ね合わせ、確認すること。	・事務局：土地利用図と重ね合わせて確認する。
		・Aペアのハンティング行動は、上空しか見えていない状況であることから、今後、観察する必要がある。	・事務局：谷部が観察出来る地点を追加して、モニタリングを行う。
		・定点調査結果で得られた飛跡は数百メートルの誤差を含んでいるのではないか。レーザー測距機や幼鳥にテレメーターを装着するなどして、これまでの観察記録を客観的な手法を使って確認してはどうか。	・事務局：モニタリング調査時にレーザー測距機等を用いて確認する。
3. 準備書記載内容について	・準備書記載内容について説明した。	・営巣地のあるような小さな谷では、250mメッシュによる解析は、実際に観察していない谷の中まで観察しているかのような印象を与えるため、準備書記載案の図面は、50mメッシュで図示されたい。	・事務局：50mメッシュ図を作成する。なお、準備書の記載については、調整する。
		・既設ダムの事例については、できるだけ具体的な事例を準備書に記載することが必要である。	・事務局：既設ダムの事例については、具体的に記載できるよう調整する。
		・行動圏内部構造と事業計画との重複を計算しているが、同じ幼鳥の行動圏であっても、エリアの端と中央部では影響に対する重みが違うのではないか。影響を評価する際に、近い場所には特定の係数をかけて重み付けをすとか、そういうことはしているのか。	・事務局：既設ダムの事例と比較して検討する。

		<ul style="list-style-type: none"> 貯水池までの距離や重複面積は、どの水位で計算しているのか。通常の運用水位での影響を見るのがいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：通常の水位である常時満水位を基本とし、巣間距離についてはサーチャージ水位、常時満水位の距離を表記する。
4. その他	<ul style="list-style-type: none"> A ペア周辺の林道計画について 	<ul style="list-style-type: none"> A ペアについては、林道が営巣地に近いことから、幼鳥の行動範囲を一番の保護の対象にされたい。 幼鳥の行動範囲内の林道工事はしないで、周辺のエを買い取ることは出来ないのか。また、上流部は幼鳥行動範囲の外側から林道を付け替えることで利便性を確保することは出来ないのか。準備書記載案に「生き物にとって重要な場所を買い取る」と言うような趣旨のことは書けないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：林道計画については、その対応について、今後とも検討する。 事務局：A ペアの周辺のエの保護を含め、林道計画について、今後とも検討を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> クマタカ以外の猛禽類の今後の調査方針について 	<ul style="list-style-type: none"> オオタカ、ハチクマ、サシバの3種類に関しては、思いがけないところに巣が発見される可能性はあるので、継続的に調査が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：モニタリング調査を実施する。方法については委員の意見を参考に検討する。